

(注) 文字がかすむ、ぼやけて見える等の症状

- Wi-Fiルーターの近くに移動
- 画像解像度を下げる
- 重い動画等を見ている家族にやめてもらう

介護福祉士一発合格

正月特訓講座2024

『総合問題』

～1回読んで分かる！長文読解テクニック～

2024/1/2～1/3

てっちゃん先生☆

総合問題の概要

- 事例は全部で4つ。各事例に3問ずつ、合計12問出題。
- 事例文の長さはA4用紙で**短いもので6行**程度、**長いもので15行**程度と差がある。
また**各問題の文が長いもの**もある。
- 午後問題62問を1問1分15秒で解いた場合、**事例1つ**(3問)につき、
8分費やせる。(詳細は虎の巻に)
- 12科目から1軍、2軍、3軍問題が均等に出題される→**2軍と3軍はゲット!**
- 4事例のうち、**2事例は65歳以上の高齢者**(認知症多し!)、
もう**2事例は子供～64歳以下の障害者**(児)の出題が定番化している。

総合問題の出題パターン

どこが	〈こころとからだ〉	2 軍
どうなると	〈発達と老化〉	2 軍
何が出て	〈障害の理解〉	2 軍
どうすればいい？	〈生活支援技術〉	3 軍
	〈コミュニケーション技術〉	3 軍
	〈社会の理解〉	「サービス問題」 1 軍

長文読解の3ステップ

【Step 1】 問題(3問)に目を通して、何が問われるかチェック

【Step 2】 事例文を印を付けながら読む

- 登場人物（**本人**とその**家族**）を□で囲む
- 病気**名・**障害**名・**利用サービス**(※)を○で囲む
- 重要情報**に_____を引く（本人の**想い**、本人の状態**変化**等）

【Step 3】 再び問題に戻って解く

※高齢者は介護保険サービス、障害者は障害者総合支援法のサービス

一緒に解いてみよう！

その前に・・・

養護老人ホームと特別養護老人ホーム
「1軍レベル」

の違いを押さえておこう。

養護老人ホームと特別養護老人ホーム

- どちらも「**老人福祉法**」から生まれた（1963年）
- 当時はどちらも市町村判断の**措置**入所だった（養護は困窮者、特養は要介護者）
- 「**介護保険法**」（2000年）ができ、措置から**契約**に変わった。
- 介護保険法上の名称が異なるので要注意！
 - 養護老人ホーム→**特定施設入居者生活介護**
 - 特別養護老人ホーム→**介護老人福祉施設**（原則**要介護3以上**）
- 養護老人ホームは現在も措置入所がある（困窮者や被虐待者）

31回-総合問題 2

Gさん(84 歳, 女性)は, 8 年前に経済的な理由から養護老人ホームに入所した。Gさんは, 「自分のことは, 自分でやりたい」といつも話しており, 毎朝の体操が日課であった。施設のプログラムである健康体操にも他の利用者と楽しみながら毎週参加していた。

しかし, 最近では, 足がすくんだようになり, 始めの一步をうまく出せず, 歩行に不安を抱えるようになった。Gさんは, 物忘れなどの症状が以前からみられていたこと, また他の症状もみられるようになったことから, 医師の診察を受けたところ, レビー小体型認知症(dementia with Lewy bodies)と診断された。

Gさんは, 居室の前にあるトイレに行くとき, 転倒してけがをするのではないかと不安になっている。Gさんが入所している施設は, N県から介護保険サービス事業者の指定を受けている。この施設で生活を続けたいというGさんの意向を受けて, 本人を交えて施設職員と介護支援専門員(ケアマネジャー)が支援の内容を検討した。

問題 117

Gさんが診察を受けるきっかけとなった他の症状とは、発症した認知症 (dementia) の特徴的な症状の一つである。

他の症状に該当するものとして、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 片麻痺
- 2 脱抑制
- 3 幻視
- 4 常同行動
- 5 感情失禁

問題 118

Gさんの移動に関する支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 床にある目印をまたぐように声かけをする。
- 2 車いすで移動する。
- 3 居室にカーペットを敷く。
- 4 歩幅を小さくするように声かけをする。
- 5 四点杖の使用を勧める。

問題 119

Gさんの意向を踏まえた介護保険サービスとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 看護小規模多機能型居宅介護
- 2 小規模多機能型居宅介護
- 3 短期入所療養介護
- 4 特定施設入居者生活介護
- 5 認知症対応型共同生活介護

自力で解いてみよう！

高齢者 1 事例

障害者 2 事例

計 3 事例あります。

授業中に時間を計って解きますので
事前にやらなくて大丈夫です。

33回-総合問題 2

Kさん（80歳，女性）は夫が亡くなった後，自宅で一人暮らしをしていた。ある日，一人娘のLさんが訪ねると，ごみが散乱しており，冷蔵庫の中には古くなった食材がたくさん入っていた。

変化に驚いたLさんはKさんと病院を受診したところ，認知症（dementia）と診断された。Lさんは，Kさんに家庭的な雰囲気の中で生活をしてほしいと考えた。その結果，Kさんは認知症対応型共同生活介護（グループホーム）を利用することになった。

入居して1週間が経過し，Kさんと関わったM介護福祉職は，Kさんは短期記憶の低下により，最近の出来事については話すことは難しいが，自分が学校に通っていた頃の話や，子どもの頃に歌っていた歌については生き生きと話すことを確認した。

問題 117

M介護福祉職は、Kさんが今持っている認知能力を活用して、ほかの利用者と交流する機会を作りたいと考え、Kさんとほかの利用者に参加してもらう活動 を企画することにした。

M介護福祉職が企画した活動の手法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 リアリティ・オリエンテーション (reality orientation)
- 2 ピアカウンセリング (peer counseling)
- 3 スーパービジョン (supervision)
- 4 回想法
- 5 社会生活技能訓練

問題 118

ある日，M介護福祉職がKさんの入浴介護を行っていたところ，手のひらや指の間に赤い丘疹を確認した。M介護福祉職がKさんに，「かゆくないですか」と聞くと，「かゆい」と答えた。そのため，病院を受診したところ，角化型疥癬（hyperkeratotic scabies）と診断された。Kさんへの介護福祉職の対応として，最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 入浴後の洗濯物は，ビニール袋に入れて運ぶ。
- 2 マスクを着けてもらう。
- 3 個室に隔離する必要はない。
- 4 介護は素手で行う。
- 5 ほかの利用者よりも先に入浴してもらう。

問題 119

認知症対応型共同生活介護（グループホーム）を利用するKさんの要介護度に変更があった場合に影響があるものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 介護保険料
- 2 認知症対応型共同生活介護費
- 3 介護サービスの利用者負担割合
- 4 食費
- 5 居住費

32回-総合問題 3

Bさん（22歳，男性）は，19歳の時に統合失調症（schizophrenia）を発症し，精神保健指定医の診察の結果，入院の必要があると診断された。Bさん自身からは入院の同意が得られず，父親の同意で精神科病院に入院した。

その後，数回の入退院を繰り返した後，21歳から居宅介護を週1回，訪問看護を月2回，デイケアを週3回利用しながら一人暮らしをしている。

居宅介護では，料理や掃除，買物などの介護福祉職の支援を受けているが，Bさんも調子の良いときは一緒に行っている。訪問看護では，Bさんは，服薬を忘れることがあるため，看護師と一緒に薬の飲み忘れがないかを確認している。また，デイケアでは，運動と園芸のグループに参加している。

問題 120

Bさんが19歳で精神科病院に入院したときの入院形態として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 任意入院
- 2 医療保護入院
- 3 応急入院
- 4 措置入院
- 5 緊急措置入院

問題 121

Bさんは、居宅介護のC介護福祉職にはデイケアや生活のことについて安心して話すようになってきた。ある日、C介護福祉職が掃除をしていて、薬が2週間分内服されていないことを見つけた。また、Bさんは、「Cさんにだけ話します。みんなが私の悪口を言って、電波を飛ばして監視しています」とおびえながら話した。

話を聞いたC介護福祉職のBさんに対する最初の言葉かけとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「今すぐ薬を飲んでください」
- 2 「悪口の内容を詳しく教えてください」
- 3 「薬を飲んでいないからですよ」
- 4 「医師に話しておきますね」
- 5 「それは不安ですね」

問題 122

Bさんは、C介護福祉職と話したことをきっかけに、定期的に服薬できるようになり、以前と同じ支援を受けながら一人暮らしを続けている。最近、デイケアで就労を目指すグループ活動に自ら参加するようになった。Bさんは、「就労に挑戦してみたい」という気持ちはあるが、就労経験のある他のメンバーの失敗談を聞くと、「自信がない」とも言っている。

Bさんへの支援に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自分で料理と掃除ができるようになることが優先であると話す。
- 2 服薬ができなかったことを取り上げ、治療に専念するように話す。
- 3 無理せず、今の生活を維持することが大切であると話す。
- 4 長所を一緒に探し、どのような仕事に向いているのかを考えようと話す。
- 5 他のメンバーの失敗原因を考え、失敗しない対策をしようと話す。

33回-総合問題 3

Aさん（10歳，男性）は，自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）であり，多動で発語は少ない。毎日のように道路に飛び出してしまったり，高い所に登ったりするなど，危険の判断ができない。また，感情の起伏が激しく，パニックになると止めても壁に頭を打ちつけ，気持ちが高ぶると騒ぎ出す。お金の使い方がわからないため好きなものをたくさん買おうとする。現在は，特別支援学校に通っており，普段の介護は母親が一人で担っている。

問題 120

Aさんのこのような状態に該当するものとして，最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 注意障害
- 2 遂行機能障害
- 3 強度行動障害
- 4 記憶障害
- 5 気分障害

問題 121

Aさんの将来を考え、家族以外の支援者と行動できるようにすることを目標に障害福祉サービスを利用することになった。介護福祉職と一緒に散歩に行き、外出時のルールを覚えたり、移動中の危険回避などの支援を受けている。

Aさんが利用しているサービスとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 同行援護
- 2 自立生活援助
- 3 自立訓練
- 4 生活介護
- 5 行動援護

問題 122

Aさんのサービス利用開始から6か月が経ち、支援の見直しをすることになった。Aさんの現状は、散歩では周囲を気にせず走り出すなど、まだ危険認知ができていない。介護福祉職はルールを守ることや周りに注意するように声かけをするが、注意されるとイライラし、パニックになることがある。

一方で、スーパーではお菓子のパッケージを見て、硬貨を出し、長時間その場から動こうとしない。介護福祉職は、Aさんがお菓子とお金に注目している様子から、その力を引き出す支援を特別支援学校に提案した。

介護福祉職が特別支援学校に提案した支援の背景となる考え方として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 エンパワメント (empowerment)
- 2 アドボカシー (advocacy)
- 3 ピアサポート (peer support)
- 4 ノーマライゼーション (normalization)
- 5 インクルージョン (inclusion)